

関東大学女子バレーボール 1・2 部リーグのゲームにおける 有効的なブロックの関係性と比較の研究

The study of effective blocking on the game in volleyball -Compared with between 1st and 2nd of college league-

1K10C340-4 濱野 安希子

主査 葛西 順一先生 副査 松井 泰二先生

【目的】

近年のバレーボールは、高さ・スピード・パワーが増大し、さらに打撃技術が発展したことによって、より複雑なコンビネーション攻撃になっている。このような状況の中で、バレーボールの勝敗を左右するものは、一体何なのか、その点の追求が求められている。

そこで本研究では、現代のバレーボールの試合において有効的なブロックが勝敗を左右する要因の 1 つであるかという点と、1 部リーグと 2 部リーグとではその競技力に明らかな差が見られるかという点について明示することを目的とした。

【方法】

平成 25 年度春季関東大学女子 1 部バレーボールリーグ戦 9 試合、秋季関東大学女子 2 部バレーボールリーグ戦 10 試合に参加し、W 大学の全試合について、計 19 試合のゲーム分析を行い、1・2 部を比較した。

後方観覧席に VTR カメラを設置し、撮影した映像を使い、後日ゲーム分析ソフトの「Data Volley」でブロックに関するデータを取り、①決定本数、②ミス本数、③貢献の 3 つの項目について分析した。分析手段として、統計ソフトは windows 版 SPSS version20 を用いた。有意差検定については、カイ二乗検定を用い、有意水準は ($p < 0.10$) とした。特に、分析する上で、1・2 部でブロックの有効的な差異が見られるかについて着目した。

【結果】

Data Volley によって算出されたデータを 1・2 部リーグで比較した結果、すべての試合の決定本数の数値は 2 部がやや上回った数値を示した。ミス本数の数値は 1 部リーグがかなり上回った数値を示し、貢献の数値は 2 部リーグがかなり上回った数値を示した。勝った試合の決定本数とミス本数の数値はやや 1 部リーグが上回った数値を示した。貢献の数値はほぼ等しい数値を示した。負けた試合の決定本数とミス本数の数値は 1 部リーグが上回った数値を示した。貢献の数値はかなり 2 部リーグが上回った数値を示した。また、1 部リーグの試合においては、勝った試合と負けた試合を比較すると、勝った試

合は決定本数の数値がミス本数の数値を上回り、負けた試合はミス本数の数値が決定本数の数値を上回った。貢献の数値は、勝った試合が負けた試合の数値を上回った。2 部リーグの試合においては、勝った試合と負けた試合を比較すると、勝ち負け関係なく決定本数の数値がミス本数の数値を上回った。貢献の値はほぼ等しかったが、勝った試合の貢献の数値がやや負けた試合の貢献の数値を上回っていることが確認できた。

Data Volley によって算出された 3 つの項目を、統計的な有意傾向を明らかにするため、カイ二乗検定を用いて統計を行った結果、全ての項目において、統計的な有意傾向 ($p < 0.10$) は認められなかった。全ての試合の貢献の数値は、決定本数とミス本数に比べ、最も有意傾向に近かったことから、ブロックの有効性を示したものといえよう。したがって、関東大学女子 1 部リーグではブロックの決定本数とミス本数が勝敗に関係しているものの、2 部リーグではブロックの決定本数とミス本数が勝敗に関係しているものとは言い難いことが明らかになった。

【考察】

Data Volley によって算出されたデータを 1 部リーグと 2 部リーグで比較した結果、1 部リーグではブロックの決定本数とミス本数と貢献の数値が試合の勝敗に関係しているものと考えられる。しかし、2 部リーグのブロックの決定本数とミス本数に関しては勝敗に大きな影響が見られなかった。しかし、貢献という観点では試合の勝敗に大きな影響が見られた。そのため、ブロックは決定本数からミス本数ミス本数を引いた貢献が一番重要であるものと考えられた。

大学女子 1 部リーグの試合では本研究のブロックが勝敗に影響しているといえるが、2 部リーグの試合ではブロックが勝敗に影響していないものと考えられた。